

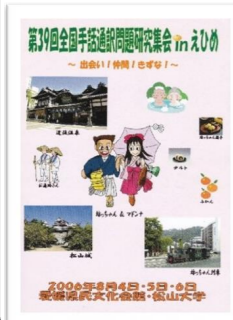
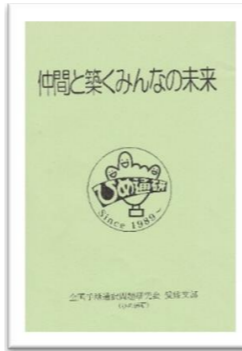
愛媛支部

40周年を迎えました

ひめ通研は、1983年に創立されました。残念ながら、それから数年間の活動についてははっきりとした記録が残っていないのですが、1989年、県聴覚障害者協会や四国の仲間の皆さんに支えていただき、新たなスタートを切りました。その後、全国規模の大会・集会を担当したり、関係団体とともに運動を行ったりしてきました。

「祝40周年」ということで、2024年は、役員で相談していろいろな企画を考えました。たとえば、記念誌の制作。会員一人ひとりから、これまでの活動を振り返って感じていることや手話への思いなどを短いメッセージとして書いていただき、記念誌を発行する予定です。以前、10周年のときにも同じように一行詩を集めた記念誌を作成しました。改めてページを開いてみると、懐かしさとともに、今も変わらない思いを感じることができます。

これまでの積み重ねや、そこに込められた熱い気持ちを受け継ぎ、新たな気持ちで活動に取り組んでいきたいと思えます。四国の皆さん、今後ともよろしくお願ひします。



香・通・研 なるほど講座 開催

香川支部

11月24日（日）香川県聴覚障害者福祉センターにて、恒例の『なるほど講座』を開催しました。会員16名・未会員7名の参加があり、盛大に開催できました。午前は、はるばる長崎からヘルスケア・トレーナーの井出政子氏を講師にお迎えし「いきいきと活動を続けるために」と題して講演していただきました。健康づくりには運動・食事・睡眠が必要で、その中の運動は意識しないとできない。運動により細胞を活性化させる。そうすると血液の循環が良くなる。ストレッチは筋肉を伸ばし、心身の緊張や疲労回復の目的で行う。正しい運動の仕方により筋肉は変化していく。やるかやらないかの差は大きい。はつらつとした先生の言葉は心に響きました。午後からは「全通研50周年記念事業」として今年のサマーフォーラムの報告と、1995年に香川県で開催された夏集会の当時の様子について話をしてもらいました。参加者は、サマーフォーラム未経験の方が多く、話を聞いて、「興味があった。」「参加したいと思った。」という感想をいただきました。来年は京都！皆で一緒に行けますように(*^-^*)



あさいと 誌

今年も出前学習会を開催しました

11月16日（土）に西部班へ、11月24日（日）に東部班へ行きそれぞれ2回目の学習会でした。

西部班は8つのルールをテーマに自撮り学習で相手に伝えるためにどうすれば分かりやすくなるかの学習です。表情が硬い・身体が傾いている等が分かった、自己修正の大切さにも気付いた等の感想がありました。

東部班は50周年記念誌の紹介から始まり、見たものを空書や指文字・数詞で表して次の人へ伝えていくゲームをしました。会員のお子さん2名もはじめての伝言ゲームに入ってもらいました。次は手の形をみてその形を使う手話単語を考える活動で、手話辞典やスマホで検索し各々が自由に話をしながら進み、お子さん達が退屈しないようにお世話する会員達もいてアットホームな時間を過ごしました。「手話単語を覚えて楽しかった初々しい頃から、ろう者と気持ちを一つにして共通の目的で歩むと喜びになる」という京都の持田氏の講演会の話伝えて終えました。



高知支部

地域での活動紹介～北組織部～

北組織部の活動紹介をします。北組織部は、コロナ禍ではオンライン開催で会議や学習会を続けていましたが、徐々に対面学習を開催できるようになりました。

10月19日（土）には、医療現場で働く北組織部の会員2人を迎えて「歳をとると身体はどうなるの?」「どこの病院に行けばいいの?」と題して、クイズも交えながら和やかな雰囲気の中で行われました。1つ目のテーマは「目」についてです。老眼、白内障、飛蚊症などについて、それぞれの仕組みと病院に掛かるタイミングなどの話があり、会場からは、白内障手術の質問もでました。2つ目のテーマは、知っているようで知らない病院のこと。地域医療の連携やかかりつけ医の大切さ、今話題のマイナ保険証などをろう者でもわかるように話をしてくれました。医療関係



は手話通訳の派遣が多い分野で、通訳がいなくて不便であったことや医師と意思疎通がうまくできなかったなど当事者らしい話も出されました。

一緒に学ぶことの大切さも実感でき、終了後は中華料理を食べながら交流を深め、また聞けなかった話なども直接聞く機会にもなりました。

徳島支部